



2016年7月15日
第590号

1部10円(組合員は組合費に含む)
郵便振替00960-7-117274

Tel (06)4793-0633 Fax(06)4793-0644 E-mail: info@ewaosaka.org http://www.ewaosaka.org

発行 大阪教育合同労働組合
Education Workers and Amalgamated Union Osaka(EWA)
発行人 大橋 裕子
連絡先 大阪市中央区北浜東1-17 8F

帝塚山学院大学 大学に入ったつもりが授業の中身はECC!?

7月10日、オープンキャンパス開催中の帝塚山学院大学に対し申入行動を行いました。

2016年4月、帝塚山学院・狭山キャンパスに勤務する3名の外国人非常勤講師組合員が、担当する英語の授業を3コマから2コマにカットされました。団交を重ねコマカット撤回を求めてきましたが、大学は、著しい入学者数の減少と財政難を理由に、団交での結論が出ないまま組合員のコマカットを強行しました。

しかし新年度が始まると、英会話学校・ECCから来た講師が英語関係科目を10コマも

担当していたのです。大学は「専任教員が急に退職することになり、穴埋めするためにECCに業務委託した」と回答。しかし実際には昨年7月の段階で、退職について把握しており、帝塚山学院が団交で虚偽の発言を繰り返していたこと、ECCへの業務委託は緊急的な対応ではなく、計画的なものであったこと、泉ヶ丘キャンパスでは、数年前からECCに業務委託をしていることが明らかになりました。

2007年文科省は、急増する業務委託に歯止めをかけるため「必要な授業科目を自ら開



設するものとする」とと大学設置基準の一部変更を全大学に通知しています。当然、帝塚山学院もこの通知を把握しているはずです。

この日、オープンキャンパスに訪れた高校生・保護者を中心に、業務委託の実態につ

いて書いたピラを配布しました。組合が「申入に来たので会場を用意するように」と伝えてから1時間半後、ようやく大学は申入に応じました。前回の争議から16年も経っているのに、組合への対応の仕方を忘れていた様子です。組合は引き続き、組合員の雇用を守ると同時に、大学設置基準に反する業務委託を行わないよう、帝塚山学院に強く要求していきます。

大橋裕子(執行委員長)

どうなっとなん!大阪地裁は“治外法権”か!?

大阪地裁内藤裕之裁判長「君が代」不起立減給処分取り消さず!

7月6日、「君が代」不起立減給処分取消裁判の判決が出ました。常日頃の支援と連帯に勝訴判決で報いたかったのですが、残念ながら一審敗訴という結果になりました。

これまでの、東京地裁、東京高裁、そして最高裁の判例から考えれば、減給処分は取り消されて当然でした。ところが、テレビ局が用意したカメラを前に緊張した面持ちの内藤裕之裁判長は、判決主文すなわち原告の請求を棄却すると述べるやいなやそそくさとまるで逃げるように法廷を後にしました。



報告集会では、弁護士からこの判決の特異性つまりこれまでの司法の考え方では到底あり得ないような判決であることが述べられました。まるで大阪だけが“治外法権”のような「君が代」絶対主義の判決に、支援者からも怒りも露わにした質問が相次ぎました。判決は、職業倫理の一片もなければ矜持もない内藤裕之裁判長に由来するのか、それとも時代がそこまで悪くなった証であるのか、改めて「君が代」なるものの恐ろしさを垣間見る思いです。

原告としては、裁判で敗訴しようが学校で起こっている異常な事態をより多くの人に伝えたいという気持ちに変わりはなく、控訴審で論を尽くすと同時に、運動面での工夫も必要であると考えています。

教育が再び為政者に利用されようとしている今、組合と



して教育の自由を守るためにどのような闘いが必要か共に考えていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

辻谷博子(高校支部)

第6回「日の丸・君が代」問題等全国学習・交流集会



7月24日、第6回「日の丸・君が代」等全国学習・交流集会2016～ たたかいを全国から大阪へ 大阪から全国へ～が開催されます。最高裁での減給・停職取消の勝利判決を勝ち取った東京をはじめ、各地からの報告、パネルディスカッションが行われます。
日時：2016年7月24日(日)
10時受付 10時半開始
場所：エルおおさか 6F 大会議室
資料代：800円
*集会終了後16時半からデモ

当面の日程

- 7月18日(月)13時開会 住まい情報センター 非正規差別NO!20条フェスタ
- 7月23日(土)11時～ 大阪空港北ターミナル JAL大阪支援共闘宣伝行動
- 7月24日(日)10時半～ エルおおさか6階大会議室 第6回「日の丸・君が代」問題等全国学習・交流集会
- 7月30日(土) エルおおさか 606号室 13時～ 第27回大阪全労協定期大会 15時～18時半 EWAセミナー2016「フツウの仕事がしたい」上映&土屋トカチ監督×関西学生アルバイトユニオントークセッション **みなさんふるってご参加ください!**

大いに疑問! アドミッションポリシーでの入試選抜

府教育庁 アドポリでの合格者を未だ掌握せず? {7月15日現在}

2016年度高校入試から新たにアドミッションポリシー(アドポリ)に基づく選抜が実施されました。しかしながら、府教育庁はこの制度による合格者数を未だ集約していないと言っています。

組合は5月15日にアドポリ選抜での合格者数を「行政文書開示請求」しましたが、府教育庁は、合格者数を示す文書は存在しないと通知してきました。

鳴り物入りで導入した新制度を検証することなく、6月17日には「入学者選抜の方法」を発表し、アドポリ選抜は来年も継続します。

文書不存在は本当か?

入試結果はすぐに高校から府教育庁へ「合格」「不合格」「アドポリによる合格」の3つに類別化され報告されています。表計算ソフト上でカウントすれば高校ごと、府全体での数は簡単に集約できるはずですが。

疑問だらけのアドポリとは?

アドポリ選抜とは、「自己申告書」及び「調査書中の活動/行動の記録」を資料として、高校が示した「求める生徒像、期待する生徒」に合致した受験生をボーダーライン上から選ぶ方法です。

アドポリ選抜には様々な疑問が中学校、保護者から出て

います。

まず、受験生が書く「自己申告書」は、中学の担任教師が多大な労力を掛けて作成指導をしています。しかし、「自己申告書」が利用されるのはボーダーラインに入った生徒のみ(定員の20%)で、それ以外は選抜に無関係です。

また、学習塾で「自己申告書」の作成を6000円で請け負っているという話も聞かれます。さらに、高校によってはアドポリ合格を多数出した学校とゼロの学校があり、差が激しすぎます。

不思議なアドポリも

受験生がどうやって「自己申告書」を書けばよいのか分

からないアドポリも散見されます。たとえば、「私たち教職員の思いを晴れやかに踏み越えて、期待を良い意味で裏切ってくれる、『凌駕する力』のある生徒」、「人が好き!自分も大好き!」などです。

透明性があり公正公平な入試制度を!

近年、大阪府の入試制度は目まぐるしく変わっています。学区制の廃止、前期・後期制を大々的に実施したかと思うと一転してほぼ全廃、小論文の導入と廃止、受験科目の変更など、受験生、保護者、中学/高校現場を混乱させるばかりです。

田中浩昭(高校支部)

文化おちこち

(167)

おちこちブックレビュー

目取真俊『眼の奥の森』

(影書房) 2009年

大城立裕『カクテル・パーティー』

(岩波現代文庫) 2011年



この小説の背景には、1995年の悲惨な「ある事件」があり、また「いじめ」問題も伏線として描かれている。大人たちがつくる構造的な差別の縮図として、子どもの「いじめ」があるのだ。

の舞台は1963年、未だ米国統治下の沖縄。米国・中国・沖縄・日本それぞれ出身者が集まる親善パーティーの最中に「ある事件」が起こる。パーティー参加者のこの事件への対応をめぐる、「親善」の欺瞞が露呈していく。この「親善」とは戦争当事者の「加害者性」を忘却させる装置だったのだ。

なお、は「季刊前夜」2004年秋号~2007年夏号に連載されたもの。ちなみに目取真氏は沖縄県立高校の元教員。

には小説版と戯曲版が収録されている。小説版は1967年に書かれ芥川賞受賞作となった。戯曲版は1995年のスミソニアン博物館での原爆展中止の報がきっかけとなって改作されたものであり、現在の視点も取り入れられ、また加害者性についてもより強調された内容となっている。 眞

目取真氏も大城氏も、ともに沖縄出身の芥川賞作家。

また、ともに、米軍が駐留するが故に起こった(起こり続けている)米兵による「ある事件」がテーマとなっている。

では、過去と現在とが交錯する。過去とは1945年の沖縄戦終結直後。現在とは、その60年後。米軍占領下のある島で起こった過去の「ある事件」をめぐって、加害者、傍観者、復讐する少年、それぞれの視点から物語は紡がれていく。

全労協組織化合宿・文科省交渉開催!

6月末に行われた全労協の取り組みを報告します。

【全労協第11回組織化合宿】

6月26~27日にかけて、箱根にて全労協組織化合宿が開催されました。今年のテーマは「未組織労働者の組織化!職場での仲間の組織化!を前進させよう」。今回は講師を招かず、水道、清掃、バス事業、鉄道、中小企業の労働者を組織する5労組から、組織化に向けた具体的な取り組みの事例について報告とパネルディスカッションが行われました。会場からは多くの質問が出、活発な議論が行われました。

【全労協文科省交渉】

6月28日、全労協文科省交渉が行われました。今年の実求項目27項目。貸与奨学金に対し徳政令を發布し返済を免除すること、奨学金は全て給付型にすること、学校現場におけるオリンピック・パラリンピック教育を強制しないこと、学校が自衛隊と結びつくこと、教育が軍事的に利用されるような関係を一切



断ち切ること、18歳選挙権にともない、高等学校等における政治教育を充実させることなど、今の政治の流れを反映させた要求を行いました。交渉時間はたったの30分。今回は、文科省窓口が「時間が来た」と言って一方的に交渉を打ち切り、全員が会場を退出するという場面もありました。翌日、文科省窓口はその非礼を詫言、「一般的な質問は受け付ける」と伝えてきました。毎年限られた時間での交渉ですが、文科省の各担当部署と顔を合わすことにより、日頃からの問い合わせがしやすくなります。この機会を次へと繋げ活かしていきます。 大椿裕子(執行委員長)



「こんにちは赤ちゃん」きみが大人になる頃の日本はどうなってるんだろう? 考えると涙が出てくる けれども「上

を向いて歩こう」「涙がこぼれないように」そして「見上げてごらん夜の星を」「ボクらのように名もない星がささやかな幸せを祈ってる」 永六輔逝く